



## 【大学の選び方について】

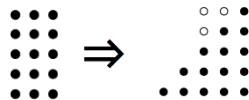
少子化により、受験世代にあたる18歳人口は減少傾向が続いています。一方で、大学の入学定員の総数は増加しているため、大学を選ばなければ大学入学希望者全員が大学に入学できる状況になりつつあります。

そういった状況の中で自分は大学で何を学びたいのか、その目標を実現できる大学はどこなのかをよく考えて、大学を選ぶことが大切です。

**春期講座**  
**3月24日(木)~4月6日(水)**  
 3/21(月)~23(水)は  
 新年度準備のため、  
 休塾日となっています  
 ので、ご連絡は3/24(木)  
 以降にお願い致します。

### 湯浅先生からの挑戦状

【先月の解答】解答は下のような図になります。



【今月の問題】

9を4つ使って、  
答えが10となる計算式を  
作ってください。

## 今月のTOPIX 大学入試英語はこう変わる！

### 【大学入試における英語試験の変容】

2015年に発表された「高大接続改革プラン」では、従来の大学入試センター試験を用いた入試制度にかえて、「大学入学希望者学力評価テスト」が導入される方針が明らかになりました。

英語については従来の制度とは異なる、2つの大きな変更点が示されました。

1つ目は、従来の「読む」「聞く」に「話す」「書く」も加えた英語の4技能をバランスよく評価の対象とすること

2つ目は、民間の資格制度(いわゆる資格・検定試験)の活用を検討することです。

「学力評価テスト」は2020~2023年度については試行期間として扱い、本格実施は2024年度とする方針が打ち出されています。

では、現在高校生のみなさんに関係のない話なのかというと、決してそうではありません。

民間の資格・検定試験の「学力評価テスト」での利用は、まだ検討中の部分が多く残されていますが、大学入試改革の実施を待たずして、国立大学、私立大学を含め、大学入試への利用は始まっています。

たとえば2015年度入試では、秋田大学、金沢大学などの国立大学、上智大学、関西学院大学などの私立大学では入試の英語に資格・検定試験が導入されました。

ここで注目すべきなのは、これまでのように推薦・AO入試の要件としてではなく、国立大学ならセンター試験の代替、私立

大学なら一般入試の利用としてはじまっていることです。

したがって、入試に英語の資格・検定試験を利用する流れが今後ますます広がっていくことは間違いないでしょう。

入試の英語での資格・検定試験を利用している大学についての公式のまとめは発表されていませんが、

2015年度入試では少なくとも上智大学、秋田大学、国際教養大学、金沢大学、長崎大学の5大学で利用されました。

2016年度入試では、これらの大学に加えて立教大学、青山学院大学、東京理科大学、東京理科大学、獨協大学、南山大学、関西学院大学、立命館大学など、人気の私立大学が続々と名乗りをあげました。

さらに2017年度入試からは早稲田大学、2019年度入試からは筑波大学が一般入試においての利用をすでに表明しています。

【どの資格・検定試験を受ければよいのか】

数ある民間資格のうち、どの資格・検定試験を受ければよいのかについてなのですが、もっとも重要なことは、志望校でどの資格を利用できるのかということです。

もし、志望校が未定でも早いうちから準備を進めておきたいというのであれば、英検、TOEFLIBT、TEAPなどが検討の対象になるでしょう。

どのくらいのレベルが求められるのかも大学・学部ごとに違いますので、きちんと確認しておくことが必須です。



<http://ameblo.jp/axia-hiroshima/>

★★ 日々の様子や取り組みを公開中 ★★

進学塾アクシア ブログ 検索

